



まろく博物館

歩く(6)

前は東桂地区を歩きました。今回は東桂地区を歩きたいと思ひます。

①スタート・東桂駅から夏狩地区へ

東桂駅を出て、左手へ進み、国道とは反対方向へ折れます。坂を下って線路をくぐり、夏狩地区へ入ります。急な坂を下って行くと、道が右に曲がる場所があります。その角にあるツバキの木が、市指定天然記念物の「上夏狩のヤブツバキ」です。都留市がツバキの北限近くであることから考えると、この大きさになることは珍しく、大変貴重なものです。

②ジロウの滝

上夏狩地区の公民館の向かいに、川へ降りる道があります。ここを降りて行くと、崖から富士の清水が滝のように



長慶寺

わき出ているのが見えます。これがジロウの滝と呼ばれているもので、およそ十メートルの高さから流れ出ています。この一帯は清流な水が豊富に湧いており、上流ではその水を利用してワサビも生産されています。

③十二天社

夏狩地区を十日市場方面に進むと、左手に十二天社があります。ここは五天神と七地神をあわせて

まつた上夏狩地区の氏神で、区有文書によると延元元年(一三三六)造営とされています。外側は雨屋で覆われているため、よく見ることができませんが、全面に施されている彫刻は非常にすばらしいものです。今回、市の文化財に指定されました。

④八面神社

下夏狩地区の氏神であるこの神

沼村下暮地に護満長者という人がいて、薬師如来が安置されていたが、家が絶えたあと、薬師堂が残されていた。それがある時富士の雪解け水によって押し流され、当地の池に止まったので、それを安置したことが始まりである。」とされています。

⑤長慶寺

十日市場地区に入る手前に長慶寺があります。ここは昔から富士の雪解け水がこんこんと湧き出ており、池にはヤマメやニジマスなどが泳いでいます。由来は、「昔小

社の祭神は、スサノオノミコトで、有名な伝説である「八岐の大蛇」から神社の名前がつけられました。境内はケヤキの大木におおわれています。

さて、今回は東桂地区を歩きました。ぜひ皆さんもこれを参考に歩いてみてください。また、現在教育委員会では、市内を歩みながら歩く「ウォーキングマップ」の作成を計画しています。そこで、みなさんの散歩コースを募集して、マップのモデルコースとして活用させていただきますと思います。ぜひ、ご応募ください。

問合せ・応募先
生涯学習課 文化振興担当



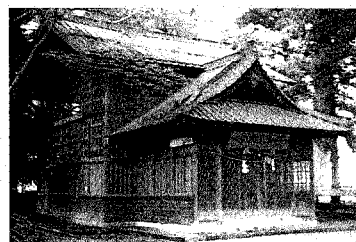
○諏訪神社本殿 市指定有形文化財第70号
所在地：川茂153

本殿は「入母屋造り」とよばれる形をしています。屋根部分を見ると支えが三段に組んであり、その三つとも鳥・龍・獅子などを形どっていることは大変珍しいものです。

特に、本殿の梁の中央部に木鼻と呼ばれる装飾を施す例は珍しく、しかも鳳凰を配する例は市内社殿にはありません。

また、土台の石には「天保二年石工渡辺茂」と刻字があり、建造の歴史を物語っています。

このように、全面的に精巧な彫刻が施されている例や、現在棟札を欠くものの記録に基づく歴史的な手掛かりがあることは文化財的な価値が高いので、今回の指定となりました。



○十二天社 市指定有形文化財第71号
所在地：都留市夏狩2094

本殿は「入母屋造り」で、正方形の一間社です。この社は彫刻がすばらしく、二重虹梁と呼ばれる部分の間などに透かし彫りなどの技巧的な彫りものが多く施されています。

身舎の正面には棧唐戸と呼ばれる扉がありますが、これは神社建築には珍しく、あまり例を見ません。また、その上部の狭間に人物が彫られており、このように彫刻を配してあることは極めて珍しいことです。

その外、彫刻が可能な部分については、全て彫られており、また、一点一点、同じ動物であっても表情姿態を変えてあります。

このように、彫刻師の大変な苦心と配慮が見られる優れた彫刻が施されており、また、建立年代や作者のわかる建造物として永く保存するためにも今回文化財に指定されました。

夏狩の十二天社 都留市有形文化財に指定 川茂の諏訪神社